

Kyoto University Public Lecture "Shunju Kougi" Autumn 2015

平成 27 年 度 秋 季 講 義

京 都 大 学 公 開 講 座

春 秋 講 義

[テーマ] 海 を 考 え る

9月5日<土>

ジュゴン、ウミガメ、オオナマズを追いかける

— 希少水圏生物の保護と共存

荒井 修亮

京都大学フィールド科学教育研究センター 教授



9月12日<土>

サンゴ島の環境と暮らし

— 海でつながる現代世界

風間 計博

京都大学大学院
人間・環境学研究科 教授



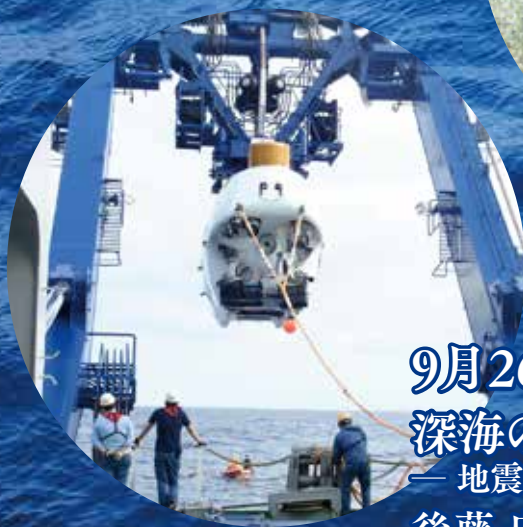
9月26日<土>

深海の調査と人の暮らし

— 地震・資源・生命調査の最前線

後藤 忠徳

京都大学大学院工学研究科 准教授



[会場]

京都大学百周年時計台記念館
百周年記念ホール

(京都市左京区吉田本町) TEL 075-753-2285

[受講定員] 500名 (各講義とも当日先着順)

※当日の入場状況によって、入場制限や立ち見のお願いをさせていただきます。あらかじめご了承ください。

[時間] 13:00～14:30 (開場12:30)

[受講料] 無料 [申し込み] 不要

[主催] 京都大学 [後援] 京都府/京都市

[問い合わせ先] 京都大学総務部渉外課 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075(753)2233(月～金 9:00～17:00)

FAX 075(753)2246

kinen52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

平成 27 年 度 秋 季 講 義 京 都 大 学 公 開 講 座 春 秋 講 義

春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で
培われてきた知的資源について、
広く学内外の人々と共有を図るため、
1988(昭和63)年秋から開講しています。
年に2回、春と秋にテーマをもうけて講義を行います。

[テーマ] 海を考える

[会場]
京都大学
百周年時計台記念館
百周年記念ホール
(京都市左京区吉田本町)



- ◆市バス 系統31・65・201・206「京大正門前」下車
系統3・17・203「百万遍」下車
 - ◆京阪電車、叡山電鉄「出町柳」下車、徒歩20分
 - ◆地下鉄東西線「東山」下車、徒歩約25分もしくは、
市バス系統31・201・206「京大正門前」下車
- ※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

京都大学総務部渉外課では、ご登録いただいた方に、
公開講座など開催ごとにメール、ファックスで情報をお知らせします。
メールでの案内をご希望の方は、
公開講座ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/>)の
「公開講座お知らせメール受付」ページ内「申込フォーム」からお申し込みください。
ファックスでの案内をご希望の方は、「公開講座案内希望」と明記の上、
氏名(フリガナ)、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号を記入し、
075-753-2246まで送信してください。

講義の概要

9月5日〈土〉13:00~14:30 ジュゴン、ウミガメ、オオナマズ を追いかける — 希少水圏生物の保護と共存

海の生物を直接観察することは大変難しいことです。しかし、近年、
小型の発信機や記録計による研究が可能となってきました。この研究手法を「バイオロギング」と言います。これは、バイオ(生物)とロギング(記録)を組み合わせた和製英語ですが、今では学術用語として定着しています。講義では、ジュゴン、ウミガメ、メコンオオナマズを研究するに至った背景を説明するとともに、明らかになった彼らの生態を紹介します。

荒井 修亮

京都大学
フィールド科学教育研究センター 教授
(海洋生物環境学)



9月12日〈土〉13:00~14:30 サンゴ島の環境と暮らし

— 海でつながる現代世界

海は、長期にわたり人間の移動を妨げてきました。太平洋の島々は、
人類が史上最後に到達した地といわれています。本講義では、ロマンティックな楽園を想起させる、小さなサンゴ島の生活を紹介します。資源の乏しいサンゴ島の環境は、想像以上に厳しい条件を人間に突きつけています。一方、主要な産業のない島嶼国から外国へ、出稼ぎに行く人びとが数多くいます。サンゴ島の住民と私たちとの意外な接点についても見てみます。

風間 計博

京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
(人類学、オセアニア社会研究)



9月26日〈土〉13:00~14:30 深海の調査と人の暮らし

— 地震・資源・生命調査の最前線

前人未到のフロンティア「深海」はロマンの宝庫ですが、陸に住む私たち人間にとっては縁遠い存在になりがちです。でも本当に「縁遠い」のでしょうか？ 深海には地震・津波災害の研究最前線があり、新たな資源が潜んでいます。さらに生命誕生の謎も埋められているのです。本講義では深海調査の様子について映像を交えてご紹介しつつ、深海と人の暮らしの関わりについて考えてみたいと思います。

後藤 忠徳

京都大学大学院工学研究科 准教授
(地球物理学、物理探査学)

